

写真撮影に協力しました ー応援しますー

去る10月25日(木)に、筑波大学情報学群知識情報・図書館学類4年の藤森さんが、卒業論文の、基礎資料の収集のため本校を訪れたところですが、11月19日(月)に、東京大学大学院総合文化研究科学術研究員の鈴木さんが、現在執筆中である「鈴木貫太郎」の伝記本に使う「上崎上等兵曹の碑(本校歴史保存エリアに立つ。)」の写真の撮影、その他資料収集のため本校を訪れました。

鈴木さんは、日本の終戦をテーマに研究されており、著書に、戦争終結への苦悩を実証的に描き出した、『「終戦」の政治史1943-1945』(東京大学出版社, 2011年)』があります。

当日は、「上崎上等兵曹の碑」の写真撮影のほか、機関術科参考室も案内させていただきました。



機関術科参考室。資料を開く鈴木さん。奥二人は鈴木さんを手伝う本校総務課長と同資料課長



10月25日、筑波大学藤森さん来校 (本校HP既報)

**上崎上等兵曹は、日清戦役に第六号水雷艇取り組みで参加しました。
第六号水雷艇の艇長は太平洋戦争終結時の内閣総理大臣鈴木貫太郎でした。**

明治28年2月4日未明、威海衛に集結した清国北洋艦隊に夜襲を決行、16隻の水雷艇隊が敵艦に迫りました。水雷艇による夜間魚雷攻撃は世界の海戦史上初めての出来事でした。

第六号水雷艇も港内に突入、鎮遠に肉薄まさに魚雷を射出しようとしたのですが、厚い氷が発射管を閉鎖し魚雷を発射できませんでした。水雷主任であった上崎上等兵曹は責任を感じ、敵降伏後の3月14日艇内で自刃しました。

艇長鈴木貫太郎はじめ艇員は彼の忠誠を永久に伝えるため、碑を立てました。最初は横須賀竜本寺にありましたが、昭和3年、田浦交番の隣に移り、昭和43年、本校の地に移りました。